

Hello! FUJISEI

No.36

最近、50歳代の友人が集まると、どうしても話題は体力の衰えや病気、親や自分の介護問題、そして老後の年金になってしまいます。平均寿命が延び、人生80年時代となった今、長くなった老後生活をどのように暮らしていくかが大きな問題となっています。

●老後の生活水準は

(財)生命保険文化センターが発表した「平成22年度 生活保障に関する調査」結果から、老後生活への意識についてみてみましょう。

自分の老後生活がそれまでの生活と比較して経済的にどのように変化すると考えているかをみると、「つつましい生活」が70.0%、「同じ程度の生活」が19.4%、「経済的に豊かな生活」が2.1%となっています。

そして、夫婦2人で老後生活を送る上で必要と思われる最低日常生活費はというと、平均額は月額で22.3万円でした。

しかし、老後もギリギリではなくゆとりのある生活を送りたいものです。そのための上乗せ額が必要です。この上乗せ額を何に使うかでは、「旅行やレジャー」が62.4%と最も高く、以下、「趣味や教養」(53.0%)、「身内とのつきあい」(49.3%)、「日常生活費の充実」(47.5%)の順となっています。

確実な方法で早めの老後生活資金準備

ゆとりある老後には 平均36.6万円が必要

「老後の最低日常生活費」と「老後のゆとりのための上乗せ額」を合計した「ゆとりある老後生活費」は月額で平均36.6万円となっていますが、40万円以上(40~45万円未満、45~50万円未満、50万円以上の合計)という割合は31.4%と、3割の人はもっと必要だと考えています。

それでは、自分の老後の日常生活費を公的年金でまかなえると考えているかをみると、「まかなえると思う」は15.1%、「まかなえるとは思わない」は81.3%と8割を超える人

が公的年金では足りないと考えています。やはり、ゆとりのある充実した老後生活を送るには、何らかの経済的準備が必要となります。何かの手段で「準備している」は61.2%、「準備していない」は36.2%となっており、具体的な準備手段では、「預貯金」が42.6%と最も高く、次いで「個人年金保険・変額個人年金保険や生命保険」(40.4%)となっています。

確実な方法で、早めの老後生活への準備をお勧めします。

ゆとりある老後生活費

(財)生命保険文化センター「平成22年度 生活保障に関する調査」

